

## 第2回沼津港振興基本計画策定委員会 議事概要

---

日 時：平成27年1月14日（水）午前10時00分～午後12時00分

場 所：プラサ ヴェルテ 407 会議室

出席者：

（委員）

静岡県立大学学長 木苗 直秀（委員長）

横浜国立大学都市イノベーション研究院教授 高見沢 実

東海大学海洋学部環境社会学科教授 東 恵子

常葉大学経営学部経営学科教授 大久保 あかね

静岡県 難波 喬司副知事

沼津市 高橋 強産業振興部長（副市長代理）

（意見発表者）

（有）ブレインチャイルド 金子 綾

REFS 代表 小松 浩二

佐政水産 株式会社 専務取締役 佐藤 慎一郎

※沼津グランドホテル 小森氏は欠席

事務局：静岡県交通基盤部港湾局港湾企画課

配布資料：

- ・次第
  - ・委員名簿
  - ・座席表
  - ・策定委員会設置要綱
  - ・発表者プロフィール
  - ・第2回沼津港振興基本計画策定委員会（説明資料・参考資料）
  - ・前回までの資料
  - ・地元関係者による意見発表資料
  - ・とりまとめシート
- 

### 1. 第1回委員会の振り返り

- ・ 前回委員会の概要を説明（事務局）

## 2. 地元関係者による意見発表・質疑応答

発表者：(有)ブレインチャイルド 観光情報発信アドバイザー 金子 綾

- ・ 沼津駅と中心市街地と沼津港を結ぶため、2年間で香貫山を利用したツアーを計25回開催した。
- ・ 沼津の課題
  - ① 東名沼津インター利用台数は増加している（県内で利用者数が一番多い）が、観光交流客数や宿泊客数が年々減少傾向（年間140万人程）である。
  - ② 多くの旅行者の目的は沼津港に一極集中しており、回遊性に乏しい。
  - ③ 中心市街地の空洞化。
- ・ 沼津港の魅力
  - ① 観光地としての魅力。（県外からの来訪者が6割を超える。）
  - ② 買い物・食事・水族館。
  - ③ 沼津港の方々の出している魅力ある店舗。（主に食事。）
- ・ 要望すること
  - ① 適切な情報発信が乏しく、沼津港のすばらしさが伝わっていない。沼津といえば〇〇というコンセプトを持って、市や港のHP、ポスター、チラシで沼津の独自性を情報発信し、市民が口を揃えて言えるレベルまで波及して欲しい。
  - ② 5年後のオリンピック開催での観光客の誘致を見据えた沼津のキャッチフレーズの確立。
- ・ 沼津港のハード・ソフト面に望むもの
  - ・ 観光としての魅力を伸ばすのであれば、ソフト面の充実を図るべき。
  - ・ ハード面の整備については、観光客に媚びるような整備はしないで欲しい。
  - ・ 沼津港が選ばれる要素を厳選し、沼津らしさを残して行ってほしい。
  - ・ 港とのつながりの上で市街地も同様の沼津らしさを出して行ってほしい。
  - ・ ソフト面の充実の例
    - i) 沼津港+体験（カヤック、ウィンドサーフィン、みかん狩り等）
    - ii) 沼津港+周辺施設（御用邸等）
    - iii) 沼津港+市内散策
- ・ iii) については、市内を循環させて地元にお金を落としてもらえるような仕組みづくりが必要。MAP作りやHP作成等の人材の育成は大変であるが重要。
- ・ 個人でのツアー企画は限界がある。企業と連携を図り、一緒に沼津をよくしていきたい。
- ・ 5年後の明確なゴールに向かって、少しでも前へ進みたい。

### 【委員との質疑応答】

(大久保)

・ 金子さんの思う「沼津らしさ」とは。金子さんが一番沼津として打ち出したいことは。  
(金子)

・ 今の沼津はこれといったコンセプトが作れていないので、何がと言われると難しい。

(木苗)

・ なぜ、香貫山をターゲットにされたのか。

(金子)

・ 一番は自身が山登りを好きであったこと。市民の方々が沼津の素晴らしいところを再発見できる場、非常に魅力がある。

(高見沢)

①宿泊客はどういう方か。どこに泊まるのか。

②沼津港で何でもできるとしたらどんなことがしたいか。

(金子)

- ・ ツアー目的の方と、沼津港（水族館等）を目的とされる方が多い。
- ・ 宿泊地はビジネスホテルが多く、旅館に泊まる方は少ない。
- ・ コンシェルジュ機能を充実させて、訪れる方に情報発信を行いたい。

(東)

・ 沼津港の魅力をあげると。セリの見学は宿泊する方にとってはどうなのか。

(金子)

- ・ 魅力は食事が一番だと思う。
- ・ 宿泊客で、早朝セリを見に行く元気のある方は少ないように思う。

(高橋)

・ 中心市街地への沼津港の賑わいの普及のアイディアは。

(金子)

・ 例えばプラハに行くと、多くの観光案内人が傘をもってガイドできることをアピールしている。沼津港にもそのような人を配置し、市街地観光へ誘導するのがいいのでは。

(難波)

・ 若い方で同じように活動されている方はおられるのか。

(金子)

・ 沼津港で市場の観光ツアーを企画している女性がいる。

**発表者：REFS（有機野菜店）代表 小松 浩二**

- ・ 「Proud NUMAZU」という活動で沼津の誇りをみつめる取り組みを数多く開催している。
- ・ 水産祭りの際に、大学生に「手書き地図」を書いてもらい、新しい観点を見出した。
- ・ 沼津は山、川、海と何でもあるが、アクションを起こす人が少ない。
- ・ 沼津の入口（Portal）として、モノやヒトの交流を通じて、街と繋ぐ。
- ・ 沼津港を「選ばれる港」にするための提案。

①地元住民の食の台所にする

- i) 鮮魚が直接買えるようにする。
- ii) 港口公園へ子供を呼んで買い物できる環境をつくる。
- iii) 野菜を販売する。（魚粉・魚粕を肥料にして、沼津野菜をつくる。）

②体感できる場にする

- i) 古くからある倉庫を趣のあるものにリノベーションする。
- ii) 水産祭りの体感プログラムの常設、室内サーフィン、オランダ体感プログラム等。

※オランダは干物の原料のおもな輸入元

③周辺エリアへの拠点とする

- i) 街中まで船で行ける拠点。
  - ii) マリンスポーツの拠点。
  - iii) サイクリングの拠点。
  - iv) 漁村文化の発信拠点。
  - v) 水辺リング（狩野川を利用した上流、下流の連携）の拠点。
  - vi) 釣りの拠点。
- ・ 沼津港は「日本一を感じ、味わえ、愉しめる」場所。
  - ・ これからの沼津港の拠点イメージ

①沼津港西側：価値創造エリア

街の文化の情報発信、カフェ圏アクティビティ拠点

②沼津港北側：販売・体験エリア

鮮魚・野菜・地域の物産の販売、海外とのつながり、体験コンテンツの常設開催

③沼津港東側：旅情体感エリア

写真スポット、イベント開催スペース

**【委員との質疑応答】**

(大久保)

- ・ 沼津で一緒に活動できる仲間はあるのか。

(小松)

- ・ 思いのある方は多いが、プレイヤーが少ない。東京にも沼津に興味を持っている方が多くいるので、そのような人たちが出てきてくればいい。

(高見沢)

- ・ クラフト系やモノづくりをする人が入りやすい条件はどのようなものか。

(小松)

- ・ クラフト系の同じような系統の人が常にいること。
- ・ 帰る場所があるという居心地の良さ。
- ・ 拠点居住という使い方もあると思う。

(東)

- ・ 食の台所のような展開は非常におもしろい。
- ・ 伊豆、戸田との連携をもっと活発にしていくべきだと思う。
- ・ 日本一の沼津らしさがあるように感じた。

(難波)

- ・ 沼津は住みたい街日本一の魅力があると思う。

(東)

- ・ 千本松原の活用方法は。

(小松)

- ・ ウォーキングなどの体を動かす拠点とするのがいいのでは。

(高橋)

- ・ 日本一というキーワードが非常にいいと思う。

(木苗)

- ・ ターゲットをどこの誰にして、リピーターをどう作るかを考えた上で、今の意見を整理すればもっとすばらしいものになるのではないかと思う。

**発表者：沼津グランドホテル 専務取締役 小森 裕之** (欠席のため事務局が資料代読)

- ・ 沼津の魅力
  - ① 「食」。飲食店が集中しているところ。
  - ② 観光客が非現実を体験できる漁港としての風景。
- ・ 西伊豆方面への海上交通を残していきたい。
- ・ 沼津港の「美味しい、楽しい、また来たい」をやっていきたい。
- ・ ハード、ソフト面に求めること
  - ① 港の入口はハコモノで覆うのではなく新鮮館とは違ったコンセプトの施設を配置して欲しい。

- ② 「らららサンビーチ」、「大瀬崎」と沼津を海上で結ぶ取り組みをしたい。
- ・ 今後、西伊豆の旅館関係者等とも組んで、沼津を拠点とした伊豆半島との船を通じた連携を、考えていきたい。

**発表者：佐政水産 株式会社 専務取締役 佐藤 慎一郎**

- ・ 観光客だけでなく、地元の人に愛される美しい港街にしたい。
- ・ 50、100年先も名所と呼ばれる観光地を目指す。
- ・ 現状、沼津は静岡県の中でも他都市に出ていく人の割合が多い。
- ・ 富士山、箱根、伊豆という世界屈指の観光地に囲まれている沼津のポテンシャルを地元の人にはもっと活かすべきである。
- ・ 沼津の魅力
  - ① 温暖な気候、深い駿河湾からの豊富な魚介類の水揚げ。
  - ② 一級河川の狩野川。
  - ③ 富士山が楽しめる。
  - ④ 交通の便に恵まれている。
  - ⑤ 千本松原などの周辺拠点が豊富。
- ・ 沼津の問題点
  - ① 車でくる人が大半で、電車で来る人が少ない。
  - ② 観光客のために駅前が整備されていない。
  - ③ 港と市街地の連携が取れていない。
  - ④ 行政や商工会議所と港の連携も壁を感じる。
  - ⑤ 外港の鉄くずが景観上良くない。
  - ⑥ 沼津港に伊豆等の沼津港以南の情報発信源がない。
- ・ 沼津港のターゲット
  - ① 地元の方々
  - ② 沼津に来たことのない国内旅行者（海外旅行者よりも優先すべき）
  - ③ 洋風の店に興味のある方々（沼津港にはまだ少ない。）
- ・ 開発の提案
  - ① シーブルー事業をモデルとした内港をつくる。
    - i) 内港に水中トンネル、水中カフェを作り、駿河湾を再現する。
    - ii) フィレンツェのベッキオ橋をモチーフにした家屋付きの橋。
    - iii) 噴水、夜のライトアップ。
    - iv) シーフードレストラン・屋台街を周辺に配置。
    - v) ボートやカヌーを楽しめる体験ゾーンの設置。
    - vi) 伊豆マルシェ（伊豆の物産展）を設置。
  - ② 港と駅を繋ぐ。

- i) ケーブルカー
  - ii) 水上バス、タクシー
  - iii) 自転車道
- ③ 外港を整備し、クルーズ船を誘致する。
- ④ 内港の西側に立体駐車場を整備し、千本松原への遊歩道を整備する。
- ・ 他にないものを沼津港に作り、人を呼び込む。
  - ・ 働きのいい港を作る。

#### 【委員との質疑応答】

(大久保)

- ・ 地元の方に愛される港、働きのいい港という部分に共感が持てた。

(高見沢)

- ・ どういう街であってほしいか。こういうものが足りないというものはないか。

(佐藤)

- ・ 高校の同級生は働く場所が少なく戻ってこない。
- ・ 働ける場所があればと思うので、港で働きやすい施策があればいいと思う。内港を開発する許可さえいただければ、人を呼び込む港にする自信がある。

(東)

- ・ 熱意は非常に素晴らしいと思う。
- ・ 沼津らしさを考えると、イメージ図は若干自分とは意見が違うような気はする。
- ・ 自然に囲まれており、セリが見られる港が本来の沼津らしさであり、それを半分以上潰してしまうような印象を受けた。
- ・ 空間を活かし、自然と調和した計画が望ましいのでは。

(佐藤)

- ・ 家業である市場・水産業は南側で継続していく。
- ・ 全国的に一度行ったら忘れないような印象に残る漁港が無い中、観光地としてどこにもない魅力をもつ港を作るという考えのもとで提案させて頂いた。

### 3. 意見交換

(木苗)

- ・ キーワードは、食・文化・歴史・自然（海・山・川）であり、点ではなく、線、面的に考えていくことが必要である。

(難波)

- ・ 沼津港には働く人も楽しめるポテンシャルがある。

(高見沢)

- ・ 施設とは、そこにいる人の活動を包括するものであればいい。
- ・ コンシェルジュを入り口付近に配置することはいいと思う。

(大久保)

- ・ 市民の方々から情報を得ることが出来たのは、非常に有意義でよかった。
- ・ 誇れる街を作るために、シンボルとなる沼津港を作れるように協議を進めたい。

(木苗)

- ・ 若い方でいっしょに活動できる方はおられるのか。そういった会はあるのか。

(佐藤)

- ・ 具体的にどうするといった話がないので、そういった会はないが、賛同してくれる人は何人かいる。

(高橋)

- ・ 沼津駅周辺の駐車場を利用したパークアンドライドも検討する必要がある。
- ・ 駅からの直行バスを利用し、回遊性も考えたい。

(木苗)

- ・ 沼津駅に案内がなく、沼津港へすぐに行きたいという気分にはならない。
- ・ パンフレットはもう少しまとめたものがあってもいい。
- ・ 夢を持って、進めていくことが必要。

(東)

- ・ 地域の総力が足りない。
- ・ 地域の方々とネットワークを構築する必要がある。

(難波)

- ・ 静岡県は食材の都ではあるが、食文化という面ではまだまだである。
- ・ 沼津駅を出て感じる街並みは非常に落ち着いており魅力がある。

(木苗)

- ・ リピーターを考えて、1回目と2回目を比べて何か違いがわかるようなものを考えたい。



(大久保)

- ・ 駿河湾、狩野川等で沼津には多くの食材が集まるが、いいものは中央に送ってしまう。食材を余すことなくエコに食べるところに沼津の食文化があるように思う。

#### 4. その他

各委員には、今回の地元代表者による発表の評価や感想を「とりまとめシート」に記入してもらい、今後の具体的方策の検討に活用する。